

第3学年 社会科の実践

1. 単元名 わたしたちの市

2. 単元の目標

○身近な地域や自分たちの市の様子を大まかに理解することができる。

○観察、調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめることができる。

【知識・技能】

○都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現することができる。

【思考・判断・表現】

○地域社会に対する誇りと愛情を育てる。

【主体的に学習に取り組む態度】

3. 学習活動について

(1) 児童について

本学級は男子10名女子20名である。学習に意欲的に取り組む児童が多く、社会科に限らず、自分の思いや考えを発表しようとする場面が増えてきている。「学習についてのアンケート」を実施したところ、社会科の学習が「好き」「どちらかといえば好き」と答えた児童は76%、社会科の見学に行ったり、地域の方の話を聞いたりするのが「好き」「どちらかといえば好き」と答えた児童が66%おり、社会科に対する興味関心は全体的に高い。

児童はこれまでに「学校のまわり」の単元で三新塔地域の見学に行き、古くから残る地域の建物や昔の木次町の様子、土地の様子について学習してきた。「お店ではたらく人」では、地域にある商店街のお店とスーパーマーケット「マルマン」を見学し、「ロイロノートスクール」を用いて自分たちが撮影した写真を整理し、商品を販売する仕事をする人の工夫やお店の工夫について学習してきた。

2年生までの生活科の学習も含め、「学校の周り」や「木次」にスポットを当てて学習してきたため、「雲南市」が6町で構成されていることやどんなものが雲南市にあるかなどをほとんど知らない児童が多かった。児童に「雲南市には大きくわけて6つの町があるが知っているか」聞いたところ、掛合町や加茂町などはなかなか出てこなかった。また、「雲南市で自慢できることやおすすめのある場所があるか」と聞いたところ自分たちがよく行く店などは出てきたが、市内の場所では知らないところが多かった。そのため、本単元では、市内の6町のそれぞれ1か所ずつにスポットを当て、子どもたちが見学できるようにする。自分が知っている町だけでなく、他の町の様子も知ること、雲南市についての理解が深まり、より愛着がわくようになるのではないかと考えた。

3年生になってから、全員でタブレット端末の基本的な使い方、カメラの操作、写真の加工、アプリケーションの使い方などを学習した。そして社会科見学の際に自分たちが興味をもったことを写真に写したり、ロイロノートスクールを用いて自分たちの考えを整理・共有したり、学校の周りの航空写真を見たりした。

今回の授業では、雲南市内の6つの地域に見学に行き、児童がタブレット端末で自分たちの興味

をもった場所の写真を撮り、場所の様子を振り返ることができるようにすること、情報共有することを通して、雲南市の土地の様子や交通の様子、伝統的建造物に興味をもてるようにしたい。そして、自分たちが育った雲南市に愛着をもち、雲南市のよさを発信する力を育てていきたい。

(2) 単元について

本単元は、学習指導要領第3学年の内容を受けて設定した。

身近な地域や市町村の様子について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 身近な地域や自分たちの市の様子を大まかに理解すること。

(イ) 観察・調査したり、地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 都道府県内における市の位置、市の地形や土地利用、交通の広がり、市役所など主な公共施設の場所と働き、古くから残る建造物の分布などに着目して、身近な地域や市の様子を捉え、場所による違いを考え、表現すること。

この内容は社会科学習で大切なフィールドワークを通して、社会科的事象を理解し、考えていくことができる単元である。また、ICT機器を活用して、調べて分かったことや考えたことを表現する活動や、お互いに話し合い、考えを交流する言語活動にも適している。

本単元では雲南市の特色を考える手がかりとして、市内の特色ある地域の土地や交通の様子などについて調べる。そして市内6町それぞれに1か所ずつポイントとなる地域を取り上げることにした。以下は、本単元で取り上げる6つの地域と着目させたいポイントである。

- ・大東町 須我神社周辺・・・須我神社は、「簸の川上に於いて八岐遠呂智（やまたのおろち）を退治した須佐之男命（すさのおのみこと）は、稲田姫と共にこの須賀の地に至り、そのとき美しい雲の立ち昇るのを見て、「八雲立つ 出雲八重垣 つまごみに 八重垣つくる その八重垣を」と歌い、日本で初めての宮殿を作り、鎮まりました。」（須我神社公式HPより）とあるように、古事記、日本書紀の時代からあるとされる古い古い神社である。このような神社が市内にあることで、児童が出雲神話を特色とした市内の観光について考えることができるのではないかと考える。
- ・加茂町 砂子原の茶畑・・・松平不昧の影響もあり、お茶どころでもある島根県で、雲南市内では加茂町、大東町に大きな茶畑がある。自分たちが育てたお茶の葉を自社の工場で加工し、商品として出荷している。煎茶を飲む機会やお茶畑などを知らない児童が見学することで雲南市内の農業について考えることができるのではないかと考える。
- ・木次町 尺の内工業団地・・・雲南市内でも大きな規模の工業団地である。工業団地内にあるホシザキ電機は島根を代表する大きな企業であり、工場の大ささや作っているもの、工場の様子などを見学することで、地域のために貢献する企業のことや雲南市の工業について考えさせたい。
- ・三刀屋町 下熊谷国道54号線沿い・・・雲南市内でも特に広い道路があり、高速道路のイン

ターチェンジなどもある。スーパーマーケットや新しい店舗などもあり、たくさんの車や人が行き交う場所である。なぜこの場所がそのように発展したのか考えることができる。と考える。

- ・掛合町 龍頭が滝周辺・・・日本の滝百選に選ばれている滝である。滝の裏側から見るができるため、夏はたくさんの観光客でにぎわう。自然が豊かな雲南市であるが、山間部にあるため、児童はあまり行ったことがない。雲南市の自然について考えることのできる場所である。と考える。
- ・吉田町 菅谷たたら山内周辺・・・「たたら製鉄」という方法は鎌倉時代から始まり、現代に受け継がれている。「山内」には、たたら製鉄に従事していた人が住んでいた屋敷の跡が残っている。古くから残る建物を見学することで、雲南市に伝わる伝統的な建物や産業について興味をもてるのではないかと考える。

これら6カ所を取り上げることで場所による土地や交通、建物、人の様子の違いについて考えることができるのではないかと考えた。

(3) 指導にあたって

○研究の視点（1）

学ぶことに興味や関心をもち課題解決への見通しをもって、学習に取り組めば、自分の思いや考えをもち、主体的に学習に関わろうとする子が育つであろう。

【① 教材・学習課題との出会いの場の工夫】

本単元への関心をもたせるために、「雲南市」で思い浮かぶものは何かを書き出させる。個人ではあまり出てこない児童もいると思うが、それを児童同士で交流することで、新たな発見があり、「もっと知りたい」という意欲につながる出会いになると考える。また、夏休みに雲南市調べを自分のしたいところでさせることで雲南市に興味をもたせる。

【②学習課題、学習の流れの明確化】

教室に小単元「雲南市の様子」の大きな学習の流れを掲示し、単元のゴールを明確にすることで、児童が学習のめあてを自覚して取り組めるようにしていきたい。学習の途中にも、今学習していることが次の学習にどのようにつながっているか分かり、安心して、また、めあてを意識して学習できると考える。

本単元のゴールを「雲南市のおすすめの場所をパンフレットにまとめよう」と設定し、見学に行った自分たちしか分からないことをパンフレットにして、保護者の方や地域の方に見てもらう。相手意識をもつことで、「調べて分かったことを伝えたい」という思いにつなげ、児童の意欲を高めたい。

○研究の視点（2）

子ども自身の思考や表現に結びつくような学習の場（学習プロセス）を工夫すれば、お互いの思いや考えを共有し合い、さらに深めていこうとする子が育つであろう。

【①個人思考を深める手立ての工夫】

タブレット端末で前時までの板書や見学・活動の様子を撮影しておく。これを必要に応じてプ

ロジェクターで映すことにより、思考が停滞している児童が考えをもちやすいようにする。

【②ペア学習やグループ学習など思いや考えを表現する場の工夫（思考過程の共有化）】

児童を6町1か所ずつの特徴的な場所に合わせて6グループに編成する。さらにグループ内を2人組に分け、2人で1台タブレット端末を使えるようにする。見学時にはタブレット端末で写真を撮ったり、授業時に書き込んだりしていく。グループ・ペアは学習のねらいが達成できるよう、調べたい場所や対人関係を考慮して、指導者が編成する。これらの工夫により、全員が主体的に観察・調査し、思いや考えを表現できるようにしていく。

○研究の視点（3）

情報活用の視点を明確にし、学習の中で児童がICTを活用する場面を設定すれば、課題解決に向けて思考・判断し、表現する力が育つであろう。

【①情報収集・整理分析場面でのタブレット端末の利用】

タブレット端末で前時までの板書や見学・活動の様子を撮影しておく。これを授業導入時での前時の振り返りや、思考時の既習事項の確認に活用することで、これまでの学習内容を視覚的に振り返ることができるようにする。また、必要に応じて学習の手掛かりになる写真や地図等をプロジェクターに映し出し、思考が停滞している児童が考えをもちやすいようにする。

雲南市見学の際に、児童が2人で1台のタブレット端末で土地利用、交通の広がり、古くから残る建造物の分布などを撮影できるようにする。

【② グループ学習での共同学習ツールとしてのタブレット端末の活用】

教員が写真や地図を児童のタブレットに送信するために用いることで、授業時間の効率的な活用、ペーパーレスによる資源の有効活用、一人一人が手元で大きく見ることができるなどの効果が期待できる。タブレット端末で撮影した写真は、ロイロノートスクール等のアプリケーションを用いることで写真に線や文字を書き込むことができる。また、全員で同時に学習を進めるために「コラボノート」を使用することで、児童が待ち時間なく活動できるというよさがある。

【③発表場面で、根拠としてのタブレット端末の利用】

児童が見学で見つけたことや資料を見て気づいたことについて、自分たちが撮影した写真をタブレット端末で示しながら聞き手に見せることで発表に根拠を持たせることができる。言葉での理解が難しい児童への視覚支援にもなる。根拠を示し、発表することを繰り返すことにより、児童がどのような場面でどのような資料を提示すればよいか考える力をつけていきたい。

4. 本単元で身に付けたい情報活用能力

○雲南市を探検し、その場所についての情報を集める（Aウ）

5. キャリア教育の視点

自分の考えや気持ちを分かりやすく伝える（人間関係形成・社会形成能力）

6. 指導計画と評価計画（全13時間・本時 10/13時）

次	時	主な学習活動	主な評価			
			知・技	思・判・表	態度	評価規準（評価方法）
ー つかむ	1	雲南市について調べ、魅力が伝わるようなパンフレットを作るという学習の見通しをもつ。			○	<input checked="" type="checkbox"/> 友達との話し合いで積極的に発言し、調べることを決め、積極的に調べようとしている。（発言・行動観察・ワークシート）
	2	雲南市について調べたことを班で共有し、全員で解決していくための学習問題を作る。			○	<input checked="" type="checkbox"/> 雲南市について自分が調べたことを言葉や絵で表現し、学習問題について考えている。
ハ 調べる	3	木次駅の周辺について1学期の探検や経験をもとに土地の様子などを表にまとめる。	○			<input checked="" type="checkbox"/> 土地の高い低いや建物の様子などを表や白地図にまとめている。（発言・ワークシート）
	4 5 6	三刀屋、龍頭が滝、菅谷たたら山内に見学に行く。	○			<input checked="" type="checkbox"/> 観察や聞き取り調査をし、雲南市の様子について必要な情報を集めて読み取っている。（ワークシート）
	7 8	須我神社、加茂（茶畑）、尺の内工業団地に見学に行く。	○			<input checked="" type="checkbox"/> 観察や聞き取り調査をし、雲南市の様子について必要な情報を集めて読み取っている。（ワークシート）
	9	雲南市の地域の様子を比べ合い、場所によって様子に違いがあることを考える。			○	<input checked="" type="checkbox"/> 見学で調べたことを表や地図にまとめている。（行動観察、タブレット端末、ワークシート）

Ⅲ まじめる	10 【本時】	雲南市の地域の様子を比べ 合い、場所によって様子に違 いがあることを考える。		○	表土地や交通の様子の違いについて 気づいたことをまとめ、言葉で表現 している。(行動観察、タブレット端 末、ワークシート)
	11	見学した場所の「土地」「人」 「交通」「建物」を総合して 違いや関連がないか話し合 う。		○	思場所ごとの違いや関連に気付いて いる。(発言、行動観察)
	12 13	雲南市の特色やよさをアピ ールする紹介文を入れなが らパンフレットを作る。完成 したものを発表し合う。		○ ○	感雲南市の様子や特色を考えようと している。(ワークシート) 表雲南市の特色や雲南市の様子が場所 によって違うことを具体的に表現して いる。(パンフレット)

7. 本時の学習

(1) 目標

見学した場所の「土地の様子」「交通の様子」について話し合ってまとめることができる。

【思考、判断、表現】

(2) 展開

	学習活動と予想される児童の反応	教師の支援 (○)・評価 (【 】) ICT 活用
つ か む	1. 前時までの学習を振り返り、本時のめあて と学習の流れを確認する。	○前時までの学習を振り返るために「木次駅 のまわり」「建物の様子」「人の様子」につ いてまとめた表を確認する。 ○見通しをもって活動できるように本時の流 れを掲示する。
考 え る	2. 見学で見つけたことを協力しながらタブレ ット端末を用いてコラボノートに書き込む。 ・土地の様子 ・交通の様子	○何を書くのが困っている児童には、タブ レット端末に記録してある、見学のとき とった動画や写真を振り返って見るよう声 がけをする。
広 げ る ・	3. 記入した表に書いてあることを発表し、発 表していない班は自分たちがそれら以外に見 つけたことがあれば付け加えるアドバイスを 行う。	○お互いにアドバイスしやすいように、表を 分かりやすくするためにアドバイスする視点 を提示したり、付け加えると良いことを例示 したりする。

見学で見つけた雲南市の土地や交通のようすを話し合ってまとめよう。

深 め る	4. 話し合いをもとに修正が必要なところを修正する。	○タブレット端末に記録してある写真や地図や航空写真を児童が根拠として使えるように、タブレット内の写真をアルバム機能によって整理しておく。
	5. 完成した表を見てそれぞれの場所ごとの土地と交通の違いについて考えたことや気づいたことを発表する。	【思考、判断、表現】見学で調べたこと、気づいたことを表にまとめることができる。(行動観察、タブレット端末、ワークシート) ○6か所の場所による様子の違いをはっきりさせるために「土地の様子」「交通の様子」を表にまとめて言えることはないか声かけをする。
ま と め る	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">雲南市は地いきによって土地のり用のしかたや交通のようすにちがいがある。</div>	
	6. コラボノートを印刷し、裏面に振り返りを書く。	○児童の学習が記録として自分のファイルに残るように、コラボノートのページを印刷し、裏に振り返りが書けるようにする。

(3) 評価

評価の観点	十分満足と思われる児童の姿	おおむね満足と思われる児童の姿	支援が必要と思われる児童への手立て
思考、判断、表現	グループの中で進んで話し合いをまとめ、分かりやすく伝えるにはどうしたらいいか工夫して表に表現することができる。	友達と協力して土地や交通の様子の違いについて気づいたことをまとめ、言葉で表現することができる。	見学や資料から土地の様子などがまとめにくい児童には、他のグループの様子を紹介したり、グループ内の友達に説明させたりする。

(4) 研究の視点

タブレット端末やコラボノートを用いたことは、本時のねらいを達成するために有効であったか。

8. 指導の実際と考察

(1) 教材・学習課題と出会いの場の工夫 研究の視点(1)－①

まず、雲南市で有名なものや雲南市で知っていることについて、児童に考えさせた。自分の知らな

いことを友達が発言していると、聞いている児童は、うなずいたり、パンフレットを見て調べようとしたりする姿が見られた。また、自分が気になった雲南市のことについて家庭学習で調べ学習に取り組んだ。家の人に聞いたり、インターネットで調べたりするなどして詳しく調べている児童もいた。さらに、雲南市のおすすめの「食」について考えたときには、「砂子原のお茶」を実際に飲み、ペットボトルのお茶と飲み比べることで興味をもって学習に向かうことができた。このように意欲的に学習に取り組めるように、自分たちで調べたい場所を考え、「食」について実際に味わうことは有効であると感じた（写真1）。



写真1 実際にお茶を飲み比べる様子

(2) 学習課題、学習の流れの明確化 研究の視点(1) -②

本単元「雲南市の様子」のゴールを「雲南市のおすすめの場所をパンフレットにまとめよう」と設定した。それぞれの学習にめあてを意識して取り組めるように学習計画を模造紙に書いて教室に掲示した。どのような目的をもって見学に行ったり、調べ学習をしたりしたらいいのか考えながら活動に取り組むことができた。学習課題を児童の言葉から作ることができたが、その課題を解決する方法を児童から引き出しきれなかったため、発問を工夫していきたい。

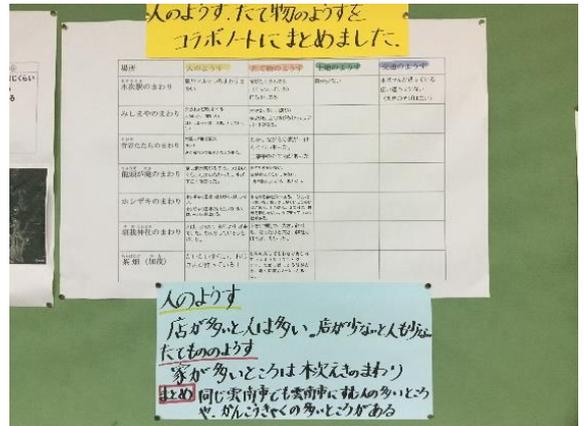


写真2 コラボノートの途中経過を掲示したもの

学習の流れを示すことで、児童は見通しをもつことができ、次の学習を楽しみにしながら進めることができた。次は「〇〇の探検に行くんだね。」など児童が話し合っている姿が見られた。

児童が表にまとめた内容を、タブレット端末を使ってコラボノートに書き込んだ。こうすることで、リアルタイムで内容を確認することができた。他の班が書き込んでいる内容を参考にしている班もあった。進捗状況を教室の後ろに掲示することで、児童が他の班の書き込んでいる内容を見て話し合う様子も見られた（写真2）。次の学習に進む意欲が高まったように感じる。

また、自分たちが調べたことをパンフレットにまとめ、人に伝えるということが、児童の「この場所の特徴を捉えるために情報を集める必要がある」という学ぶ意識や意欲につながり、積極的な調べ活動や話し合い活動につながったと考えられる。

(3) ペア学習やグループ学習など思いや考えを表現する場の工夫（思考の共有化）研究の視点(2)-②

雲南市内の各地区を探検する際に、ペアで1台タブレット端末を持たせた。自分たちがそれぞれの場所で土地や交通、人の様子が分かると思ったものや、特徴的であると思ったものを、相談して写真を撮るように指示を出した。すると児童は、ペアで相談しながら撮影するものを決めたり、何を撮っ

たらしいのかアドバイスをしあったりする場面があった（写真3）。

また、授業中に雲南市を周辺の市町村と比較して考えた場面では、スクリーンに映すと見えにくいと感じたため、ロイロノートの配信機能を使い、児童が手元で写真をじっくり見られるようにした。写真を見て気づいたことをタブレット端末の中の写真に書き込むこともできるため、ペアで話し合いながら多くの児童が積極的に話し合い、考えを深めていた（写真4）。また、自分たちの考えを黒板のスクリーンに映しながら発表させることで思考を共有することができ、「そんなことがあったんだ。」「〇〇を入れて写真を撮ったらいいんじゃない。」などの言葉が生まれ、児童が理解を深める様子が見られた。これらの実践から、社会科などの見学において、タブレット端末を持ち出し、視点にそって写真を撮影することや、写真を活用し、書き込みながら話し合うことで、児童の理解を深めることができると考える。それは、同じ場所でも個人やペアによって捉え方が違い、それらをもとに話し合う姿や活動が生まれたからである。



写真3 見学の際にタブレットで写真を撮影する様子



写真4 写真を見て気づいたことを書き込む様子

（4）グループでの共同学習ツールとしてのタブレット端末の活用 研究の視点（3）—②

ロイロノートスクール等のアプリケーションツールを使用することで、児童が画像から見つけた土地の特徴や写っていたものに丸をつけたり書き込んだりできる。そうすることで自分たちが撮影した写真をもとに考え、話し合うことができ、学習に向かう意欲につながったと考えられる。また、ペアでの話し合いや共有機能を活用することで、新たな見方や考え方を得ることができた児童もいた（写真5）。

今回の授業では、情報をまとめていく際に、表にまとめることにした。書き込むときに紙で行った場合には、同時に活動できる児童の数が限られる。コラボノートを使ったことで、同じ表を複数の児童が編集できるようになり、時間の短縮や書きたいときに書くことができ、児童の「書きたい・まとめたい」という意欲につながったように感じる。また、自分たちが書き込んだ内容をスクリーンや手元で大きく拡大して見ることができ、友達が発言している内容の理解が容易になったと考えられる。



写真5
話し合いながらコラボノートに書き込む様子

また、発表時に写真をスクリーンに映すことで発表の根拠にすることができた。言葉での説明で理解が難しい児童も写真を参照して理解が進み、有効な視覚的支援となった。タブレット端末を用いて自分たちで写真を撮り、情報収集をしたことで、児童が主体的に取り組む学習活動につながったと考えられる。

(5) 成果と今後の課題

今回の実践において、児童が探検に行くときにタブレット端末を持たせ、自分たちが見つけた土地の様子で気付いたことなどを撮影することで、児童の学習への関心が高まり、意欲的に学習に取り組むことができた。また、自分たちが撮影した写真をもとに比べたり、土地ごとの様子の違いを考えたりしていくことで、自分の意見や考えをもって友達と話し合ったり、意見を言ったりする姿が見られた。タブレット端末を活用することで、児童が写真を見て、自分たちが見つけたこと、感じたことを根拠として発表する姿も見られた。また、意見の共有や友達の意見の理解をスムーズに行うことができた。以上のことにより社会科的な考え方がより深まったと考えられる。

そして、実際に雲南市内の広い範囲に見学に行ったことで、雲南市の広さや、場所による土地の利用の仕方の違いなど、航空写真やインターネットの画像だけでは分からないようなことを見つけていくことができた。これにより、単元の目標「大まかに理解することができる」「地域社会に対する誇りと愛情を育てる」の達成につながったのではないかと考える。

課題としては今回、本時の学習で、タブレット端末を活用した授業として4つの観点でまとめる使い方が適切であったか、ということが考えられる。実際に児童は、タブレット端末を使用しているということもあり、意欲的に書き込んでいた。表に書き込み、まとめていくという活動を通して児童に雲南市の土地ごとの様子の違いを考えさせようと考えた。しかし、児童は、表にまとめたこ

とで違いに気づいたり、パンフレットにまとめるために「必要だ」「やってよかった」と感じていたのだろうか疑問に思った。パンフレットを作る際に、できあがった表を使って書いている児童よりも自分たちが実際に見たこと、聞いたことをもとにしている児童が多かった(図1)(図2)。場所の違いをまとめるときに、個人やペアで考えたことをタブレット端末で共有し、全体でまとめ、深めるという方法も可能だったのではないかと考えた。

また、児童の「学ぶ必要感」という点でも動機付けが不十分で、「表にまとめる」という学習活動が「先生に言われたからやる」という受動的な学習になってしまった。学ぶ必要感をもたせるためには、児童自らが、学びたいと思う学習課題を自分たちの力で見つける力を育てることが必要ではないかと考える。そのために、児童に自分の身の回りでどのような課題があるのか考えさせることや、単元構成や導入の仕掛けを工夫し、教師の視点ではなく、児童の視点に立った授業ができるように工夫をしていきたい。

場所	人のようす	たて物のようす	土地のようす	交通のようす
木次駅のまわり	駅やマランのまわりは多い	家がたくさんある(くっついていて)田も少しある	森が少ない	木次せんが通っている広い道路は少ない(えきのそばは広い)
みしまやのまわり	コンビニやスーパー、飲食店、コンビニエンスストア、入札、(レストラン)	木次より多い。田が家よりも、田の方が多かった。アパートがある。	遠くに行けば行くほど森が多くなる。	高速道路の上にある。駐車場に止まっている車が多くて、トラックも走っている。54号線がある。バイクやバスが走っている。
菅谷たらのまわり	外国人や観光客が多い! みず風呂や温泉などがある。	むかしながらの家が十けんぐらあった。 工事中のたて物があった	回りに家がある。田田んぼは、少ない。道は、とぼこしている。	たて物の周りに道路が一本か二本くらいあった。クネクネした道もあった。
龍頭の滝のまわり	観光客が多そう。人は4人くらいしかいなかった。水の流れがきれいだった。	たて物が少ない。家もたて物も少ない。橋のたて物があった。	あまり家が多かった。滝の近くには、石のついでがあった。いしがつきあてがあった。滝のほう、にいく時小さい滝が二つあった。	車が多く通っていない。道路がまっすぐな道になっていて、田んぼが少なく、道はまっすぐな道は少ない。道はまっすぐな道は少ない。田んぼが少なく、道はまっすぐな道は少ない。
ホシザキのまわり	ホシザキのまわりは、少ない。ホシザキのまわりは、少ない。ホシザキのまわりは、少ない。	本を売る会社があった。「鳥とうめいこのりやうかいとうめいなるあり。」がある。3つ目は、習字を取れるようになっている会社がある。	工場のまわりは、木にかこまれていた。	2つめは、駐車場には、トラックが少なく、あまり通っていない。道はまっすぐな道は少ない。田んぼが少なく、道はまっすぐな道は少ない。
須我神社のまわり	人は、少ない。お祭りが来た。かんざししているひとがいた。	小さい神社や、大きい神社も、あったけど大きい神社のほうが多かった。	家が多くて、田んぼが少なかった。どうも道の周りに、家がたたくさんあった。神社の後ろに、田んぼがあった。	2つめは、駐車場には、トラックが少なく、あまり通っていない。道はまっすぐな道は少ない。田んぼが少なく、道はまっすぐな道は少ない。
茶畑(加茂)	だいたい少ない。	お茶の葉っぱをお店で売られているような「クシャクシャ」な葉っぱは、たくさんある。遠くに家が2~3けんある。	取神甲子園球場3個分です。茶畑の上からは、さんざんがみえます。昔、茶畑は、山だつたのをこわして、今、茶畑があります。	車は、あまり通っていないけど道路が通って駐車場が通っている!

図1 本時で完成した雲南市の土地についてまとめた表



図2 児童が作成したパンフレット